



日本共産党 北区議会議員

のの山けん区政レポート

http://ken-nonoyama.com/ mail@ken-nonoyama.com

No.650 2022.8.17

日本共産党北区議員団

〒114-8508 王子本町1-15-22

ご相談は
お気軽に **090-2156-3510**

弔意の強制やめよ

安倍元首相礼賛の「国葬」の実施に反対する

日本共産党・志位委員長が7月に談話を発表



岸田政権が安倍元首相の「国葬」を行うことを閣議決定したこと、抗議の声が広がっています。

日本共産党の志位和夫委員長は、「国葬」発表直後の7月15日に、「安倍元首相礼賛の『国葬』の実施に反対する」との談話を発表。「国葬」は、評価が分かれる安倍氏の立場や政治姿勢を国家として公認、賛美・礼賛することになり、安倍元首相に対する弔意を個々の国民に対して、事実上強制することにつながると懸念を表明しています。

市民が緊急集会

8月16日には新宿駅西口で「国葬」に反対する集会とデモが行われ、参加した文人らから、「安倍さんの死を利用した弔意の強制に反対し、良心をかけて反対の声を上げ続けよう」（作家・



「国葬」に抗議する人々＝7月22日、首相官邸前

落合恵子さん）、「教育勅語を復活させるかのような教育行政を担ってきた安倍さんの国葬には反対だ」（元文部科学事務次官・前川喜平さん）、「国葬は民主主義の破壊だ。岸田文雄首相は国民に対して、統一協会との関係を申告すべきだ」（評論家・佐高信さん）、「日本を軍備強化の方向に持っていかうとしていた安倍さんをなぜ国葬とするのか。正当化されるはずがない」（ルポライター・鎌田慧さん）などの訴えがありました。

植民地支配への反省忘れない

今年も民団主催の光復節中央記念式典に参加

毎年8月15日には、在日本大韓民国民団が主催する「光復節中央記念式典」に参加することになっています。「光復節」とは、朝鮮の人々が36年にわたる旧日本軍の植民地支配から解放され、失われた主権を取り戻した（光復）ことを記念する日。加害責任を負う日本人として、反省を忘れないための一日です。（のの山けん）



光復節中央記念式典の会場で

「慰安婦」問題の真実に迫る

韓国映画「雪道」(イ・ナジュン監督・2017年)

8月27日、28日にシネマハウス大塚で上映

私がソウル郊外にある「ナムの家」を訪れ、元日本軍「慰安婦」のハルモニたちから生の証言を聞いたのは、2015年夏のことだった。壮絶な体験を経た上での「日本政府は私たちが死ぬのを待っている。その前に謝罪を」という訴えに胸が詰まった。

本作「雪道」は、元「慰安婦」の方々の証言を元に作られた、旧日本軍による植民地支配下での悲劇という歴史の真実に迫る力作である。「慰安婦」とされた幼い2人の女性の生きざまと交流、そして悲しい別れを通し、道を誤った歴史の責任が、見ている側にも突きつけられる思いがする。

「慰安婦」問題の本質である「女性という性」を貶める性暴力を許さないという決意は、この作

品の監督、脚本、プロデューサー、主な俳優が全て女性であることにも明確に示されている。

主役の2人を演じるのは、「アジョシ」「バービー」で圧倒的存在感を示したキム・セロンと、次作「神と共に」2部作で大ブレイクするキム・ヒャンギ。確かな演技力が歴史の再現を説得力あるものにし、作品に厚みを与えている。

製作から5年を経て日

本初公開となったのは、「慰安婦」問題を否定し、なかつたことにしようとする勢力からの妨害も予想されていたことだろう。韓国では誰もが知っている事実が、加害国の日本ではかき消され、闇に葬られようとしている。

困難を乗り越えての今回の上映では、映画を通じて「慰安婦」問題の真実を多くの人々に知ってもらいたいと心から願っている。(のの山けん)



平和のための
北区の
戦争展

第27回

8月20日(土)・21日(日)

北とぴあ・地下展示ホール【入場無料】

